

小平図書館友の会 会報 33号



発行日 2014年11月15日
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>

もくじ

巻頭寄稿「なかまちテラス」仲町図書館長	1
講演会報告 岡崎武志さん講演会 2014.6.7	2
川本三郎さん講演会 2014.9.27	3
会員寄稿「落ち葉から木の名前を探す」	4
新入会員寄稿「図書館に行くのが趣味ではないけれど」	5
文学散歩 江戸東京たてもの園 2014.6.13	6
第17回 定例総会報告 2014.10.5	6
学習会報告	
声に出して本を読む会 / 読書サークル・小平	7
図書館について学ぶ会 / YAを楽しむ会	7
障がい者サービス学習会	8
図書館協議会報告	8



建設中の「なかまちテラス」
2014.10.10 写真提供 : 上田館長

「なかまちテラス」の進捗状況 仲町図書館長 上田 滋

「こんにちは」小平市立仲町図書館の上田です。小平図書館友の会の皆様には、日頃からご支援ご協力をいただき、感謝しております。

さて、新しい仲町公民館・仲町図書館は、複合施設として今年度末にはリニューアルオープンします。昨年度末には建物の愛称として「なかまちテラス」も決定し、着々と準備が進んでいます。

現在は、写真のとおり周りを囲っていた養生シートも取り外され、全体像が見られるようになりました。今後は、建物の検査終了後、建物が市に引き渡され、備品や所蔵本の搬入作業へと移ります。

10月1日付で職員の人事異動が発令され、仲町図書館もようやく5名のスタッフが揃いました。今後は5人一丸となって、オープンに向け邁進してまいります。

「なかまちテラスLINKSプロジェクト」は、みなさまご存じと思います。「みんなでつくる、みんなのなかまちテラス」を合言葉に、市民と職員との連携や協働を深め、みんなで地域のシンボルを育てていくことを目標に、毎週土曜日に仲町公民館で活動しています。友の会の会員も数名参加していただいています。この事業がたくさんの方の市民参加で盛り上がり、大きな輪になっていくことを期待しています。

今後は、定期的に市報や図書館ホームページを活用し「なかまちテラス」のPRに努めていきます。また、開館イベントも盛りだくさんに計画していますので楽しみにお待ちください。

岡崎武志さん講演会

2014年6月7日(土)

「古本蒐集の愉しみ、そして図書館」

6月7日(土)、小平市中央図書館視聴覚室で岡崎武志さんの講演会が開かれました。あいにくの雨でしたが、50人ほどのお客様。

「ぼくの講演会にこれほど多くの方が集まってくださるとは……」 開口一番、岡崎さんの言葉。主催者側では、もっとたくさん集まってほしかったので、すこし残念。

*

講演テーマ「古本蒐集の愉しみ、そして図書館」。ライター・書評家であり古本についてのご著書が多い岡崎さんに、今回は図書館のことも語っていただく趣旨でした。

用意してくださったプリント資料と黒板を駆使して、岡崎さんの楽しいお話が始まりました。

ご持参の本を紹介する際、会場内に回覧してくださったのも、岡崎さんの心づかい。

*

岡崎さんは、現在、国分寺市在住ですが、11年前までは小平市にお住まいだったそうです。

友の会の「チャリティ古本市」では、毎回たくさんのお客様を誘ってくださる常連のお客様でもあります。今年のお古本市では59冊お買い上げくださったとか。

小平在住当時のマンションの様子や現在の地下室付き一戸建ての様子などを黒板に書きながら、面白おかしく、お話が進みます。聴衆を引き込む話術は、さすが。

*

印象深いエピソードが、たくさん話されました。
◆「小平市図書館といえば、最近話題になったアンネの日記事件」「破られた本の写真を見た人は痛みを感じたんですね。ぼくは、それがすごく大事なことだと思ったんです。紙の本が破られた時にそれを見た人は痛みを感じる……」

◆3・11の大地震のとき、仙台の書店で書棚の本が崩れて店中に散乱。店員が客を誘導した際、床に散らばった本をどうしても踏めない人がいたそうです。「命の危険が迫っているのに本を踏むことができない人がいる、そのことにすごく感動しました」

こういったエピソードから、電子書籍などとはちがう「紙の本」に対する岡崎さんの愛情が、ひしひしと伝わってきました。

*

珍しい本や、本とは呼べない「紙もの」も紹介されました。どれも会場内を回覧。

◆アンドレ・ケルテスの写真集『読む時間』

——本を読む姿の美しさ

◆使っていた人の書き込みがある

「フランス語入門書」——昭和3年出版の古本

◆中公新書『疎開学童の日記』1965年出版

——100円で入手した絶版本、さすが岡崎さん

◆昭和30年代の小学生の修学旅行パンフレット

——いわゆる「紙もの」の面白さ

◆1977年の小学生の日記

——古本にまぎれて売られていた「紙もの」に時代が感じられる、「今日はマックに行く」

◆岩波文庫『茨木のり子詩集』谷川俊太郎選

——茨木のり子宅まで足を運んだときの話

*

最後に「今日はこの話をしないと帰れません」と、図書館にまつわる話題。

かつて岡崎さんが新聞に連載した「図書館へ行こう」の記事プリントを朗読。日野の図書館黎明期を描いた『移動図書館ひまわり号』（前川恒雄／筑摩書房）をとりあげて、昭和40年代の公共図書館創設に尽力した人々の想いを、熱く語りました。岡崎さんが感動したというこの本、この講演会の後で私も図書館から借りて読んでみましたが、いい本です。

*

質疑応答の後、「また呼んでくださいね」とおっしゃって講演が終わりました。

岡崎さんには、ぜひまた講演していただきたいと、切に望みます。
(入山弘之)



岡崎武志さん 講演風景

川本三郎さん講演会

2014年9月27日(土)

「川本三郎さん、漫画を語る」

9月27日(土)、小平図書館友の会主催の講演を聞きました。川本さんの博識で多岐にわたる充実した話に多くの老若男女が熱心に耳を傾けていました。

一般に知られていないようなレアな話も聞けて楽しい講演でしたので、来られなかった方のためにざっくりと講演内容を書かせていただきます。

私(川本)は、漫画は大きく分けて「陰」と「陽」の二種類に分類できていると思っています。但し「少女漫画」は別のジャンルとして今回の話から除外させていただきます。この分野はあまり詳しくありませんので。

「陽」の漫画と言えはもう多くの方がご存知の「トキワ荘」グループ。手塚治虫を筆頭に石ノ森章太郎、赤塚不二夫、園山俊二、藤子不二雄らそうそうたるメンバーがいます。この方たちの作品は読者対象を小学生中心としていて、楽しく奇想天外、陽気で健全な作品が多く、子どもたちの人気を博しました。

一方「陰」といべき漫画の代表は、戦後流行った「貸本漫画」の執筆者のひとりだった「白土三平」の作品です。青林堂の創業者長井勝一という人が、白土をもっと世に送り出したいとの思いを込めて1964年に月刊漫画『ガロ』を創刊しました。

それまでの少年向けだった漫画とは違い、主に全共闘時代の大学生を中心とした若者をターゲットにした漫画雑誌でした。残念ながら今は廃刊になっていますが後発の平凡パンチなどと共に一時代を築きました。白土三平の忍者もの、特に「カムイ伝」という身分の低い忍者を主人公にした作品が人気を呼び『ガロ』の部数を大きく伸ばしていきました。これはそれまでの陽気な漫画と違い、描写がリアルで陰のあるような絵とストーリーに若者が惹きつけられました。

そして、『ガロ』の執筆者の中に私の大好きな「つげ義春」がいました。この人の作品は別段これと言った劇的なストーリーも、結末などもなく、ただ淡々と話が進んでいく。舞台としてはなんの変哲もない地方の鄙びた村などでの細かな出来事を漫画にしているのですが、実に趣のある作品に仕上がっています。絵も本当に素晴らしい。

つげさんはここ何年も新しい作品は出していませんが、過去の作品が再販されると今でも大人気で売上が伸びているそうです。現役で執筆していた時よりも書かなくなってからのほうが売れる、と言う誠に稀有な漫画家です。私もつげさんと個人的に少し親交があるのですが、今は川沿いの某地で息子さんとひっそり暮らしています。隣近所の方も知らないような存在だったのが、今年初め再販出版の広告で顔写真が新聞に載ってしまい、知られてしまったそうです。それまではそんな有名な漫画家と知らず、ちょっと意地悪な近所のおばさんが、隣に住んでいる人は「すごい人」だったと知って態度がころっと変わり親切になったそうです。顔を知られて良いこともあるんだねと笑っていました。

皆さんにも、この人の素晴らしい作品をお薦めしたい。映画でもかなり前につげさんの原作で『無能の人』という作品がありました。これは俳優の竹中直人がつげさんの作品に惚れ込んで自ら制作監督主演した映画です。そのとき竹中さんが編集者に、原資料としていくらぐらいお支払いしたら良いか相談したそうです。一応それなりの金額を提示したら返事を渋られたので、少なすぎたのかと思い更に上乗せしたところ、「あの人にそんなに払わないで下さい。ただでさえあまり書いてくれないのに、そんなにお金が入ったらますます書かなくなってしまいます。あの方は年収二百万もあれば十分やっていける人です」——と言われたそうです。それほど欲のない寡作な人で、人間的にも魅力的な人です。

*

あまり知られていない「宮地嘉六」という小説家があります。清貧文学、世捨て人文学とも呼べるものですが決して暗くなく「清貧」を楽しんでいるような作風で、つげ義春の作品にも影響を与えた部分があったようです。『老残』が代表作。

『COM』という雑誌が『ガロ』に対抗して創刊されました。手塚治虫の『火の鳥』を掲載。ここに「永島慎二」も新宿に集まる若者を描いて好評を得ました。

近頃の漫画家についても少し。「諸星大二郎」この人の作品はホラー妖怪物が多く好評です。「谷口ジロー」は絵のうまさか抜群で、フランス、イタリアなどの海外で日本の漫画家として圧倒的人気があります。「吉田秋生」この人は『BANANA FISH』が代表作とも言えますが、四人姉妹を描いた『蟬時雨のやむ頃』が来年映画になります。山形の街が見える小高い山に四人姉妹が登り、末娘が号泣するシーンが

素晴らしい。カット割りの絵の描き方が芸術的で映画でどのような演出をされるのか今から楽しみです。

以上が川本さんの講演の大まかな内容です。

私（筆者=風間）は子どもの頃、手塚治虫などよく見て楽しんでいましたが、長じてからは新聞の四コマ漫画を見るぐらいになってしまいました。川本さんの話を聞いて漫画の素晴らしさを改めて教えていただいたように思います。何十年振りかでマンガを読んで見たくくなりました。まず『蝉時雨のやむ頃』から読み始めようかなと……「漫画ばかり読んでいるとバカになる！」と言われたのはきっと「嘘」に違いない！

なお、川本三郎さんは「漫画評論家」ではなく、朝日新聞を退社後、日本文学、なかでも永井荷風、北原白秋、林芙美子などの研究で知られる人です。町歩きの本も多く出版されています。

映画にも造詣が深く、文学に限らず多岐にわたる著書があります。図書館やネットで「川本三郎」と検索すれば多くの著作が探し出せると思います。

（風間禎之助）



川本三郎さん 講演風景

「落ち葉から木の名前を探す」 — レファレンスサービスとパソコン検索 —

（剣持香世）

昨年の秋に北海道大学の構内を散策中、きれいな落ち葉を見つけました。手のひらほどの大きさで赤茶色をしています。落葉高木で構内のあちこちに見られましたので守衛室でこの葉の木の名前をたずねましたが、わかりませんでした。

東京に持ち帰りパソコンで樹木の名前を調べるいくつかのサイトに挑戦しましたが名前は判明しませんでした。この夏、「そうだ！図書館のレファレンスでわかるかもしれない」と葉を持参して中央図書館の参考室を訪れました。小平の図書館の利用は数十年になりますが参考室に足を踏み入れるのは二度目です。かばんや袋物はロッカーに預け、ちょっと緊張しながら入りました。

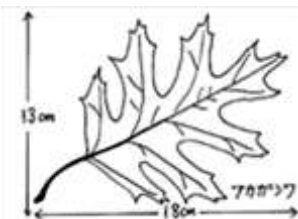
レファレンスを担当して下さったのはベテラン司書のSさん。「幹のあるものは『植物』ではなく『樹木』で検索するのよ」と「葉でわかる樹木」「原色日本樹木図鑑」他たくさんの資料を出してくださいました。その資料を繰ること1時間余、「原寸図鑑・葉っぱでおぼえる樹木2」（濱野周泰＋石井英美監修、柏書房、3400円）の中はかなり近いものを見つけることが出来ました。「アカガシワ」と「ピンオーク」いずれもブナ科コナラ属です。しかし、近いけれどまったく同じとも思えず、今度は分厚いかなり専門的な「原色樹木大図鑑」で調べてみましたが、その中にはアカガシワもピンオークも登場しません。別名や英名でも見つかりません。Sさんは本棚にある「都市樹木大図鑑」や「日本森林樹木図譜」も紹介してくださいましたが、私の目がすでにショボショボで、「また出直します」と退室してきました。

帰宅後すぐに「アカガシワ」でグーグル検索を掛けましたところ見事にヒット！まさに私の手元にあるのと同じ紅葉した葉の画像がその解説とともにあらわれました。解決！です。

個体差もある一枚の葉からパソコン検索ではたどり着けなかった木の名前のヒントは、書物の中の600種近い葉の写真の中から見つけることができました。しかしその情報は書物の中では限られ、字や写真も小さい（虫眼鏡が必要な資料も…）のですが、ヒントを基にしたパソコン検索では多くの情報を大画面で見ることが出来ました。両者の特性が良くわかる検索結果に満足し、今私が小学生だったら「夏休みの自由研究」はバッチリなのに……と思う出来事でした。

アカガシワ(赤柏)

別名 レッド・オーク、アメリカン・オーク、ノーザン・レッドオーク
 ブナ科コナラ属 広葉落葉高木 樹高 20~45m 北米東部原産
 日本へは明治中期に渡来。秋には葉色が黄色~赤色へと見事な紅葉を
 見せる。ボストンなどでは街路樹に。
 東京周辺では日比谷公園、農大厚木キャンパスなどにある。



新入会員寄稿

「図書館に行くのが
 趣味ではないけれど」
 (鈴木健之)

なぜだか図書館めぐりが好きである。特に読書家
 なわけでもないのだが、ふらっとどこかに出かけた
 先で、図書館があると立ち寄っている。

最近では運営する自治体や指定管理者も努力して
 おり、武蔵野市の武蔵野プレイスは図書館の雑誌も読
 むカフェが併設され、夜遅くまで開館している。
 なんといいところだろう、武蔵境周辺に住めば良
 かったとまで思っていたのだが、そのうち、居心地
 の良さをあまり感じていない気がしてきた。にぎや
 かな複合機能施設であっても、私は地域コミュニ
 ティ外の者だからなのだろうか。

では、私は図書館に何を求めているだろう。つな
 がりの場か、課題解決の場か、無料貸本屋か、学習
 の場か。比較のお気に入りの図書館から考えてみる
 ことにした。

*

まずは東村山市立廻田図書館。窓に向かった閲覧
 席や座敷もあり、なんとなく落ち着ける。小平市立
 図書館はどこも混んでいて閲覧席も少ないのだが、
 中央図書館の参考図書室や花小金井図書館の2階テ
 ラス席、3階ジュータン閲覧室は少し時間がゆっく
 り流れている。

千代田図書館や品川図書館のように窓に向かった
 席があるところはいい。四谷図書館では、目の前の
 閉まったブラインドを開けて新宿御苑を見たくなっ
 てしまう。

混んでいる国立国会図書館だって、部屋によつて
 は落ち着ける席もある。少し遠いが、静岡県の御前
 崎市立図書館では浜岡原発があるためだろう、立派
 な施設で座席数にも余裕があり、のんびりできる。

*

どうやら、私は図書館に対して、時には窓の外を
 見ながら、のんびり落ち着ける書齋を求めているよ
 うである。閲覧席の少ない図書館や人気があり過ぎ
 て座席に余裕のない図書館、にぎやかな図書館は「の
 んびり落ち着ける」ところではなくなってしまうの
 だ。客観的に見れば、単なる私のわがままだけれど
 ……。

*

運営する側は、少しでも利用者が増えるよう様々
 な努力をしているというのに、空いた窓際席を好む
 なんて迷惑な客であろう。念のためだが、廻田図書
 館の書架は利用者が思わず本を取りたくなるよう、
 表紙が見えるように平置きされており、本棚や座席
 の配置も単調でなく工夫が感じられる。

落ち着けてのんびりできる図書館は、単に空いて
 いればいいわけではない。雑誌が少なく読むものが
 ないから空いているなんて問題外だし、何らかの居
 心地のいい空間づくりの努力をしている図書館が落
 ち着くし、長く居たいと思わせるのだろう。

私が求めているのは滞在型図書館だが、ビジネス
 支援等の課題解決型は今後の図書館の存在意義を示
 していく重要な方策だし、地域コミュニティの核や
 観光振興の目玉を目指すのも一つの答えのはずであ
 る。

要は、図書館によって目指す方向性は違っていい。
 その地域によって必要性、目標は違うし、同じ市内に
 だって目的の違う図書館があってもいいのである。
 セグメントして解決すればいい問題だろう。

ところで、自転車で図書館めぐりをして行こうと、
 数年前に私もブログを始めてみた。最近では図書館
 以外の話題が多いが、たまたま見かけたら読んでみ
 てください。



東村山市立廻田図書館

文学散歩 江戸東京たてもの園

2014年6月13日(土)

よく晴れた初夏の一日、小金井公園にある「江戸東京たてもの園」を見学しました。参加者13名。

近くでもあり、多くの参加者が何度か訪れている場所でしたが、今回はボランティアガイドの方に引率され、いくつかの建物を解説していただきました。

午前10時、たてもの園前に集合して入園。

さっそくガイドの方から園の説明を受けました。



江戸東京たてもの園
エントランス広場

たてもの園は大きく西ゾーン、中央ゾーン、東ゾーンの三つに分かれています。全部で30棟の建築物の他、たくさんの展示物が配置され、樹木も多く気持ちのいい散歩道が広がっています。

私たちは、まず西ゾーンに向かいました。前川國男邸の内部を見学。いかにも高名な建築家の自宅らしい、斬新で居心地のよさそうな邸宅でした。



前川國男邸内部

さらに、茅葺の「八王子千人同心組頭の家」と「吉野家(農家)」の内部を見ました。どちらも広い土間と囲炉裏があって、懐かしさを感じさせる建物です。



八王子千人同心組頭の家

その後、豪華な「三井八郎右衛門邸」の内部を見学し、東ゾーンへ。「下町中通り」の「子宝湯」前で記念写真を撮り、さて昼食でもというところで、怪しい雲が広がってきて、あっという間にどしゃ降り。やむなく解散しました。これも忘れられない思い出になりそうです。(入山弘之)



子宝湯前での集合写真

第17回 定期総会報告

10月5日(日)午後、中央図書館視聴覚室で、第17回定期総会を行いました。

当日は台風18号が接近中で、あいにくの天候でしたが会員のみなさまのお陰で滞りなく下記の全議案が承認されました。

- ・前年度活動報告及び決算
- ・今年度活動予定及び予算
- ・図書館への寄贈品
- ・役員選出

この結果をもって今年度がスタートしました。

図書館への協力と会員間の交流を目標に活発な活動を期待します。

今年度のスタッフをご紹介します。

- 会長 剣持香世
- 副会長 藤原紀子、内田清子
- 会計 白井由美、小畑淳子
- 広報担当 入山弘之、剣持香世
- 事務局 伊藤規子
- 会計監査 風間禎之助、塚本健男

[学習会]

- 図書館について学ぶ会 剣持香世、加藤裕史
- 障がい者サービス学習会・交流会 名取公子、奥村公子
- 声に出して本を読む会 雑崎亮平、吉田淑江
- YAを楽しむ会 重村ヒロミ、鶴飼 恵
- 読書サークル・小平 大森輝久、藤原紀子

学習会報告

声に出して本を読む会

～「第10回ことばの玉手箱」の成功をめざして～

「声に出して本を読む会」は2005年に産声をあげ、会員の内山恵司さん(東宝演劇)のご指導と、随時、演出家のご協力を得て、月二回の演習を定例化し、年一回の発表会を開催してきました。

発表内容も毎回工夫して、昨年は、第8回を10月11日～12日、シラヤ・アートスペースで開催しました。そして今年も、「第9回ことばの玉手箱」を、10月18日(土)～19日(日)の二日間、午後1時半から小平市小川西町のNMCギャラリーで盛会裏に開催できました。

内山さんの解説進行と、作曲家でピアニストの中村夏子さんが作品に応じた演奏で盛りあげてくださり、一日目は、浅田次郎作『天切り松間がたり』より『宵待草』を清水順子さんが、菊池寛作『藤十郎の恋』を吉田淑江さんが、藤沢周平作『虹の空』を末松昌美さんが、二日目は、三浦綾子作『母』より『多喜二の死』を富岡いづみさんが、新見南吉作『木の祭り』『小さな太郎の悲しみ』『でんでんむしのかなしみ』を矢部幸子さんと青木君代さんが、森沢明夫作『虹の岬の喫茶店』を門坂徳子さんが、それぞれ情感豊かに読まれました。

さて、来年は第10回というひとつの節目を迎えることとなりますので、2015年3月7日(土)、西東京「コール田無」ホールに皆さまをお迎えし、会員一同「声に出して本を読む」ことの意義を、精一杯お伝えしたいと、準備と演習を続けています。

(雑崎亮平)

読書サークル・小平

「読書サークル・小平」は、基本的に隔月(奇数月)の第三日曜日午後に開催しています。

代表の大森さんを中心に毎回課題本を決め感想を話し合う他、その時話題になっている本や出来事を題材に話し合っています。

課題本の中には自分では手に取らない本があったり、皆さんの感想を聞き(ああそうだったのか)と「目から鱗」のこともあるのは嬉しい発見です。時にはテーマを外れて話が大きく広がることもありますが、それもまた会の魅力になっています。

大森さんの豊富な知識による上手なリードで、和やかで充実した時間を過ごしています。

「読書サークル・小平」はどなたでも参加でき、会員では無い方も参加しています。お知り合いと一緒にぜひご参加ください。

(藤原紀子)

—5月～9月の課題本—

■5月『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く』藻谷浩介/NHK 広島取材班著(ちくま新書)

■7月 各自「オススメの本」

■9月『日本劣化論』笠井潔・白井聡著(ちくま新書)

図書館について学ぶ会

2月の青梅市立中央図書館に続き9月に東村山市立中央図書館を見学しました。他市図書館の見学を通してそれぞれの図書館が抱えている問題点やそれを解決する工夫の数々を知り学ぶことは、これからの図書館のあり方を考える良いヒントになると思います。

東村山市立中央図書館で私たちが抱いた共通の感想は、市民ボランティアの導入と効果です。図書館側にとっても市民にとっても気持ちのいい関係を築き、共に図書館を支えていると感じました。また新書はまともせずにテーマごとに配架する、ほっとできるティーンズコーナーのスペース、9時30分の開館時間などに興味をもちました。

立地条件が全く違う図書館ですから、たとえ良いものでも小平では無理!ということはたくさんあります。ただ常に進化する図書館であってほしいということ。利用者の気持ちを読み、既成概念にとらわれずに工夫を怠らない図書館は素敵だと思うのです。

(剣持香世)

YAを楽しむ会

「YAを楽しむ会」は、ヤング・アダルトの本を読み、自分の思うまま感じたことを話し合います。

選書は月2冊、日本物、海外物とジャンルは広いのですが、それも楽しみの一つです。中には、好みに無いものもありますが気にせず参加出来るのでうれしいです。昔(小、中学生頃)読んで理解に苦しんだ本でも大人になってあらためて見えてくる。そんな時は目からうろこ……。

子ども文庫に携わっている方が多いせいか読みの深いのがこの会の良さでしょうか、また、作者の歴史が見えてくるのも読書のだいご味です。ヤング本などと敬遠せずにご一緒に読んでみませんか?

図書館協議会報告

きっとお孫さんや子供さんにお薦めの本が見つかると思います。本は心を豊かにしてくれます。

11月28日(金)『庭師の娘』と『ねずみ女房』の二冊。題名を見ただけでも面白そう!

(渡部詔子)

—5月から10月に読んだ本—

- 5月 『クローディアの秘密』 カニグズバーク著
『子どもの本のまなざし』 清水真砂子著
『小さな雪の町の物語』 杉みき子著
- 6月 『指輪物語1～2』 トールキン著
- 7月 『魔女ジェニファーとわたし』 カニグズバーク著
『時計坂の家』 高樓方子著
- 8月 DVDを見る『銀河鉄道の夜』
- 9月 『サティン入江のなぞ』 ピアス著
『ペーオウルフ 妖怪と竜と英雄の物語』 サトクリフ著
- 10月 『銀河鉄道の夜』 宮沢賢治著

障がい者サービス学習会

～「図書館における視覚障がい者サービスについて」
学習会に参加して～

10月13日、視覚障がい者協会主催の学習会に参加しました。講師は中央図書館サービス係の窪田さん。小川西町の障害者福祉センターに於いて、参加者30余名、内、視覚障がい者12～3名。

テーマは ①図書館における障がい者サービスの概要・著作権法の改正 ②録音、点字図書の貸し出し ③対面朗読サービス ④広報、ボランティアの養成。

紙面の都合上、詳しい内容の紹介ができませんが、強く印象を受けた「障がい者サービスのあり方」について書きます。

「障がい者サービス」とは身体障がい者のみならず、高齢者、発達・学習障がい者等「図書館利用に障がいのある方へのサービス」を指し、より詳しくいうと「図書館利用がうまくいかない場合、その原因(障害)は図書館側にある」ということだそうです。このことを障がい者にはっきり伝えたことは大切なことだと思いました。現に、ここ二年ほどの小平市図書館障がい者サービスは、相談や資料・機器の提供等を含めて画期的に進展していると思います。この学習会を通して障がい者サービスをしっかり進めていく意気込みを感じました。

(名取公子)



2014年度上半期を通じて、毎回報告された事項は「なかまちテラス」の工事進捗状況と完成後の運営方針でした。工事進捗状況は克明に報告されましたが、完成後の運営マニュアルについては、休日、開館・閉館時刻等は公民館との交渉、既存の図書館運営への影響等があり、公式報告はまだありません。

新仲町図書館が「学校図書館との拠点館」となります。小平市立小・中学校には、全校に司書教諭が配置されており、これについては教諭との兼務であるため過大な期待は禁物との意見もありますが、最低限、学校図書館相談員・協力員の窓口になれるのでは、と、私は期待しています。

来年度から「第三次小平市子ども読書活動推進計画」が始まりますので、第三次計画策定準備のためのアンケート結果や第二次計画の進捗状況とりまとめ結果等の報告が早めに行われました。

2014年10月5日の図書館友の会総会での剣持会長あいさつを先取りした形で、図書館主催行事に新味が加わった年でもあります。

(塚本健男)

予告!

2015年 第17回

チャリティ古本市

2015年 3月28日(土) 10時～17時

3月29日(日) 10時～15時

会場 小平市中央公民館ギャラリー

一冊 30円、50円～

読み終えて不要になった本を

寄付してください

単行本・新書・文庫本・児童書・全集・雑誌等

(週刊誌類、古い百科事典、CD・カセットを除く)

寄付本受付 3月25日～27日 10時～16時

小平市中央公民館ギャラリー

お問い合わせは 表紙に記載の連絡先まで